慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	武庫地方郷土資料目録(武庫郡神職會編)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.4 (1926. 11) ,p.166(626)- 167(627)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0167

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

鮮明な八十餘の圖版が挿入せられてある。

本書、吉田村の一里塚榎の條に、本邦一里塚の沿革が、參考資料を擧げて說明してあるから、その大要を紹介し度いと思ふ。

往古は、三十里に一驛を設置する制度があつて、旅行者に里程を知らしめる利があつたが、未だ一里づつの里標はなかつた。吾妻鏡に、奥州の藤原氏が、白河より率土濱に至る廿一日の行程に、一里毎に笠卒都婆を建てた如きは、蓋し後世一里塚築造考案の權輿であらう。織田信長の時、三十六町を一里として近畿諸國に一里塚を造つたと云ふが、（本朝世事談綺）德川時代となつて、幕府は、慶長九年二月に、東海東山等の諸街道を修理し、始めて一里塚を築かしめた。卽ち日本橋を基として、七道に亙つて三十六町毎に塚を築き、その上に榎を植ゑて里程標となし、爾來諸國に造られた。この一里塚は、明治時代に於ける交通路の改正變更の爲め、急激に廢絕して、現存するものは小數で、石川縣下に於ては僅に吉田村に一ヶ所を存する位である。

塚の上に樹木を植ゑた事に就いては、發案者を信長と云ひ、秀光と云ひ、或は又家光と傳へ、榎の木は、餘の木の聞き違へによつたと云ふが、何れも信ずるに足らない。（柳莽隨筆、千曲之眞砂雨窓閒話等）榎樹は、溫帶より暖帶に亙つて、極めて普通なる樹木なるを以て得るに易く、根は深く廣く擴がつて風に堪へ、且つ大木となり、高く聳えて遠方より望み得られるので、これを撰擇したものと思はれる。支那にては、一里毎に土堠を築き、又は槐木を植ゑて、目標となしたので、（事林類聚、北史等）これにならつたもので、又百家說林續編蒼梧隨筆に載せた「榎と槐と其の木相似て、槐は少にして榎木は多きものゆゑ、得るに安く、最松杉と異にしてひかげをなして大木となるを以つて、槐に代つて塚の木となせしなるべし」と云ふ說は、眞に近きが如く思はれる。

加賀藩に於ける一里塚は、慶長九年、加越能三州の道路測定の上、里堠を築かれたものと考へられ、元祿十一年七月石川郡里正連名上申書に「一里塚は卅六町を一里と仕長短は無之、越中能州も卅六町を一里とす、一里塚は往還道外、脇道又は他國へ越候道筋には前々より無御座」とあれば官道に限つたものと思はれる。

要するに、現存一里塚は、往時に於ける道路の位置、並に交通の狀を知る貴重な資料なるを以て、出來るだけ保存の設備を施す必要があらう。現に東京府下瀧川の一里塚は道路擴張の爲め撤廢の運命と定まつたものを、澁澤子爵等名士の奔走によつて辛じて取り止め、今は記念物として立派に保存せられて居る。

最後に本會はこの調査に從事せられた縣調査囑託市村塘、安田作次郎の兩氏の勞に甚大の敬意を表し、且つかく有益の書を度々寄贈せられたる石川縣に對して、深謝の意を表すものである。

（武田勝藏）

武庫地方鄕土資料目錄（武庫郡神職會編）

近年、鄕土史研究の氣運は、年と共に進展し、それに關する編纂上梓が企てられると共に、その史料展覽會が、盛んに開催せられる事は、誠に慶賀すべき祥事である。この展覽會は、親しく史料實物に接するので、興味もあり、參考となる處多大であるが、

これは、たゞ其の會の催された地方の人々位に限り、遠隔の地の人、或は其の他の事情ある人には、直接に益を與ふる事がすくない。そこで親しく觀覽の人はもとより、觀覽し得なかつた人々の爲めにも便宜を計つたものが、その展覽會目錄印刷である。此の目錄が頒布されると、其れに從つて、遠隔の人でも、その陳列品の大要を推察して、參考となる處が少くない。史料展覽會に、目錄の印刷せられぬ事を往々見受けるが、經費の許す限り、是非印行頒布せられたいものである。

さて前記武庫地方鄕土史料展覽會目錄は、大正九年十一月に、武庫神職團の主催により、西宮市西宮神社社務所に於て、陳列せられた鄕土史料展覽會の目錄で、本年七月增補再版せられたものである。史料は、左の十部に分類せられ、且つ其の主要なるものには、簡單に解說が附記されて閱者の便を計つてある。

石器、銅鐸、古墳出土品——各新圖會、地誌、書籍——社寺關係——民政史料——檢地帳及制札類——產業交通に關する史料——著名なる人物及舊家の遺品——地圖繪圖類——雜件——附錄

猶ほ挿圖十五が挿入してある。

附錄は、更に——武庫郡內の國寶、武庫郡及西宮市內の特別保護建造物、內務省指定の史蹟、延喜式內神社、武庫といふ名義に就いて、——に分けられてある。右の名義に於ては、諸說を揭げ最後に冠辭考の「難波よりつれに向はるゝ所なる故に向山といふか、向つ峰、向つ國など古へ多くいひたり」と吉田博士の說なる（地名辭書）「武庫、原各向と云ふ事最も信ずべし。日本書紀に、向津比賣とあるは、卽ち武庫郡廣田大神なり。當時西宮廣田の湏を向津と稱せるならむ云々」を引いて、最も妥當なる見解による解釋であると記されてある。

最後に、本會は、有益な展覽會を催し、且つ目錄を頒布せられた武庫郡神職會に深甚の敬謝意を表する。（武田勝藏）

啓明會第十八回講演集

昨年、琉球に關する展覽會及び講演會を開催して、南島研究につよい刺戟を與へたる啓明會は、今年アイヌに關する講演會を開催して、北方民族のためにつくされた。本書は、その際の講演集であつて、まづ柳田國男氏は『眼前の異人種問題』に於いて、弱小民族の人口減少が、わが國のごとき人口增加に苦しむものよりも一層痛切なる問題であること、アイヌと我々との關係が、非常に密接にして、重大なるものであるにかゝはらず、我々が、アイヌに對して、從來あまりに冷淡であり、その政策の間違つてゐたこと、今後は、正しく且つ深い學問によつて、完全なる人道の法則によつて、誤れる帝國主義を正し、異民族の救濟に當ることが、日本のごとき特殊の境遇にある國家の豫定せられたる任務であることを說かれた。ついて金田一京助氏は『アイヌ研究の現狀』に於いて、過去に於けるわが國及び西洋のアイヌ研究學者の業蹟を一瞥し、つぎに、氏自身が、アイヌ研究に一新生面を開かれたところの叙事詩の研究についてのべられた。『アイヌの生活と博物館のアイヌ品陳列棚』に於いて、八田三郎氏は、札幌博物館に於け